

研究室紹介

保健・医療・福祉政策システム領域
国際地域栄養研究室

Global and Community Nutrition Laboratory

准教授 三好 美紀

連絡先:m_miyoshi@auhw.ac.jp



主な研究テーマ

- 地域における栄養評価と食生活支援に関する研究（国内、国外）
- 国際協力における栄養分野の政策・活動に関する研究
- 栄養転換期にある途上国支援に関する研究



(パプアニューギニア
2011)

主な担当講義科目

□国際保健学

グローバルヘルスの観点から、地球環境、健康問題とそれらに対する効果的な対策に関して理解を深める、具体的には、世界における健康問題の現状と課題を学び、特に、開発途上国の健康・栄養格差とその要因を個人・世帯・地域・国・地球レベルでとらえ、同分野における国際協力の現状を理解することを目指します。

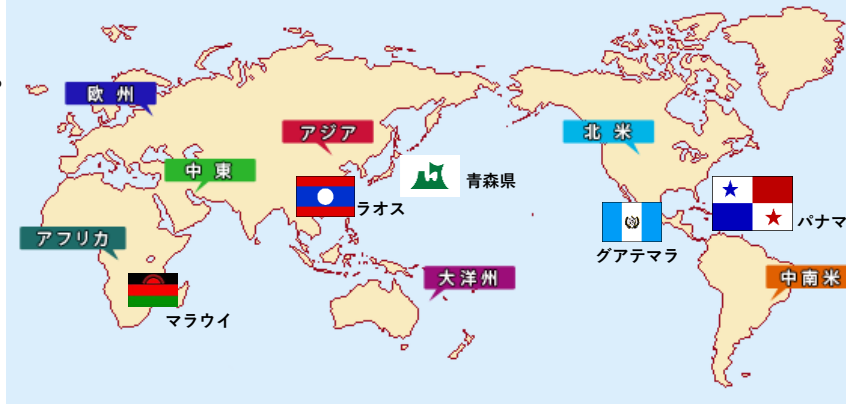
□保健・医療・福祉学研究特論

研究紹介

平成30年度より開始した研究室です。当研究室では、地域の健康・栄養課題とその解決に向けた取り組みに関する研究および栄養転換期にある途上国支援に関する研究を行っています。

今年3月に博士前期課程を修了した学生は、これまでの青森県内の行政、教育機関、健診施設での現場経験をふまえて県内市町村における産後の体重管理に関する研究を行いました。

現在5名(博士前期4名、博士後期1名)の大学院生が、それぞれのフィールドで研究テーマに取り組んでいます。博士前期課程4名のうち3名はそれぞれグアテマラ、マラウイ、パナマにおける青年海外協力隊(JICA海外協力隊)栄養士隊員としての経験をふまえて研究計画の検討を進めており、1名は県内給食施設で発生する食品廃棄物の有効活用に関する研究を検討しています。また、博士後期課程の学生は、ラオス農村部での栄養改善プロジェクトから、NPO法人ISAPH職員としての経験を活かして研究テーマを設定し、現地調査実施に向けて準備を進めています。



修了生の研究テーマ

〈博士前期課程〉青森県市町村における産後の体重管理に関する保健指導の実態と産後の体重復帰の要因

大学院進学を希望する方へ一言

大学院生は青森県内および東京、大阪、三重から集まっています。全員社会人の学生で、忙しい中でもそれぞれが持つ問題意識をモチベーションとして大学院での勉強・研究につなげています。

ゼミでは院生同士の意見交換を重視しており、国内外を問わず地域住民の未来の「健康」「食」につながる支援を探求していきます。

当研究室での研究に興味を持った方は、是非、ご相談ください！



ラオスにおける食事調査の一コマ